

# 地域の活性化

特集

# JA筑紫の自己改革

取り組み事例

## 新型コロナウイルス感染防止対策

安心してJAをご利用いただけるように、アクリル板や手指消毒液、オゾン発生器の設置など感染防止対策を徹底しています。



## ふれあい活動

組合員や地域の皆さまとの「つながり」を大切に、豊かで暮らしやすい地域づくりを目指すため、「ふれあい活動」を行っています。



## 女性部活動

地産地消の促進や食の安全を伝えるために料理教室などを実施し、仲間の輪を広げるために支店活動として健康・福祉・環境問題・防災などについて学んでいます。



## 青壮年部活動

事前に注文をいただいた肥料の配達や、農業を次世代へ伝えるために食農体験授業などを行っています。



## 情報発信

組合員向け広報誌「ふあみーゆ」をはじめ、地域住民向けコミュニティ誌「こみゆ」、各店舗で発行する「支店だより」の発行、身近な情報をお伝えするインスタグラムの運営など、皆さまに「食」「農」「協同組合」の情報を発信しています。



# 農業者の所得増大・農業生産の拡大

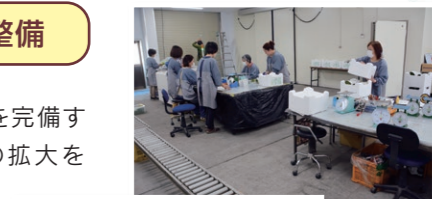
## 資材価格の低減

予約注文による生産資材の価格低減に取り組んでいます。



## 集荷場等の整備

効率的な作業場を完備するなど、農業生産の拡大を図っています。



## 農業人材の育成

新規就農者や農業後継者の育成を目的に、平成23年から「ちくし農業塾」を開講。ゆめ畑の出荷者や生産部会の部会員として活躍する人材を育成しています。



## 営農指導

各種講習会やTAC(担い手対応涉外)によるケースに応じた営農指導を実施し、課題解決や経営改善に向けた取り組みを行っています。



JA筑紫は、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標として、組合員の皆さまとの対話を大切にしながら、総合事業の強みを生かして、「地域に必要とされるJA」であり続けるために「自己改革」に取り組んでいます。

令和3年3月には、自己改革に関する内容を記したリーフレットを発行しました。ホームページにも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

※JA筑紫では「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に賛同し、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて事業活動に取り組んでいます。

## 農産物品評会の開催

農産物の品質や生産者の意識向上を図るため、農産物品評会を実施しています。



## 農畜産物の消費拡大

農畜産物の消費拡大と、組合員の農業所得増大を図るため、管内5市で農産物直売所ゆめ畑を運営。地産地消を推進し、新鮮で安全安心な農畜産物を提供しています。

